

Q-2250AT-D	64QAM	2250kbps	音声	STL/TTL
Q-2250AT-U	〃	〃	〃	TSL
Q-1125CT	〃	1125kbps	監視・制御	

* IF伝送方式の場合は、放送エリアの規模で固定回線へのC/N配分が異なるため、品質計算は出来ません。

③ ルート条件

6	01局送信 (すべての場合)
---	----------------

④ AD識別

1	デジタル方式 (通常の場合)
2	デジタル方式 (コチャネル方式の場合)

⑤ 01局代表周波数

下の表に示す代表周波数を記入してください。

周波数帯	代表周波数
A バンド	3 5 0 0 MHz
B バンド	5 9 0 0 MHz
C バンド	6 5 0 0 MHz
M バンド	6 7 0 0 MHz
D バンド	7 0 0 0 MHz
N バンド	7 6 0 0 MHz
E バンド	1 0 3 0 0 MHz
F バンド	1 0 6 0 0 MHz
G バンド	1 3 0 0 0 MHz

*なお、CH指定の場合は、指定するCHの周波数を記入して下さい。

⑥ 送信、受信

「送」と記入して下さい。

⑦ 周波数配置 (N、S)

「N」と記入して下さい。

⑧ IDコード (ルート識別符号)

申込者が整理上必要な場合には、英数字1文字を使用できます。

⑨ 免許人氏名

免許人となられる方の会社名または機関名を記入して下さい。

4. 「無線局情報」の欄

この欄は、「下り方向」と「上り方向」で、記入欄が大きく上下に分かれています。上段「下り方向」の左欄に送信「01」局のデータを、右欄に受信「15」局のデータを記入して下さい。

① 局名

都道府県名欄には識別信号の固定局が設置されている地名を記入して下さい。
漢字局名の上にカナでフリガナを記入して下さい。

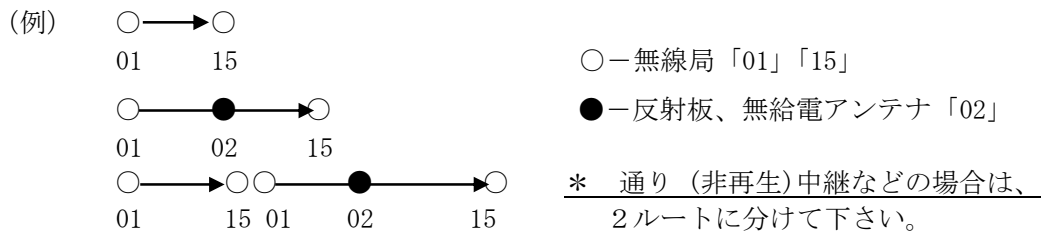
局名には漢字最大全角6文字まで（濁点含み半角10文字まで）の制限がありますので、長い名前は省略するなど、制限に収まるようにして下さい。

(例)

NHK横浜鶴見テレビ → NHK横浜鶴見
NTVとうきょうテレビだい2 → NTV第2
TBSちよだテレビ → TBSちよだ

② 局番号 「01」 or 「15」 （「02」がある場合は、情報は反射板情報の欄に記入）

送信局側を「01」局、受信局側を「15」局として記入して下さい。なお、中間に反射板がある場合は、反射板局を「02」局としてください。



③ 局位置

無線局（送受信空中線）の経度・緯度を、世界測地系で分・秒まで記入して下さい。

(例) 東経 135° 35'42" 北緯 34° 55'18"

④ 電波の方向及び偏波面

該当区間における偏波面を記入して下さい。

1. V	垂直偏波
2. H	水平偏波
3. V/H	コチャネル方式

⑤ アンテナコード

1 桁目： 放送事業用の空中線コードは、「Z」として下さい。

2～4桁目： アンテナ口径（m）を小数点1位まで記入して下さい。

(例) 3mのアンテナのときは、[0 3 0]と記入して下さい。

5～6桁目： A R I Bが一連番号を付与しますので記入の必要はありません。

未登録のアンテナの指向性パターンについて

未登録のアンテナを使用する場合は、水平特性、垂直特性、交差偏波特性をそれぞれ添付してください。

水平あるいは垂直の片方の特性しかない場合は、どちらも同じ特性とみなします。

また、交差偏波指向特性（異偏波に対する改善度）が不明な場合は、下表によって計算します。

異偏波に対する 改善度 (dB)	$\theta \leq 10^\circ$	$10^\circ < \theta \leq 30^\circ$	$30^\circ < \theta \leq 90^\circ$	$90^\circ < \theta$
	15	10	5	0

- ⑥ レドームコード
レドーム付きの場合は「1」、無しの場合の「0」として下さい。
- ⑦ アンテナ名
アンテナの型式名を記入してください。(14文字まで)
- ⑧ アンテナ利得
アンテナの利得(レドーム損失を含む)を記入して下さい。
- ⑨ アンテナ海拔高
アンテナの中心高(海拔高)を4桁以内(1m単位)で記入して下さい。
(例) アンテナ海拔高350mのときは、[350]と記入して下さい
- ⑩ 付加損失
送信機出力を外付けの減衰器で減力する場合、減衰量を2桁(1.0dB単位)で記入して下さい。
- ⑪ 給電線損失
主給電線および接続給電線など給電系の損失を3桁(0.1dB単位)で記入して下さい。
- ⑫ 分波器等損失
分波器、送受共用器、フィルターなどの損失を3桁(0.1dB単位)で記入して下さい。
- ⑬ 送信機出力等
送信機装置の出力を3桁(0.1dBm単位)で記入して下さい。
- ⑭ SDコード
受信側にSDコードを記入して下さい。

SDコード	SD方式
0	単一アンテナ
2	切り替え方式
4	受信合成方式
7	偏波SD方式

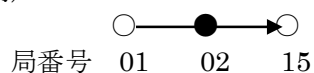
5. 「反射板情報」の欄

反射板使用時のみ記入、それ以外は空白として下さい。

反射板は1箇所2枚までです。3枚以上や2箇所以上の場合は、対応できません。

- ① 局名
(反射板局名)を漢字で記入し、最初と最後にそれぞれカッコを付け囲んでください。
漢字局名文字数は()を含め最大全角6文字(半角12文字)以内にして下さい。
- (例) (53林班) (国見山第1) など
- ② 番号は「02」です。
上位局(局番号の若番)側より順に番号を付与します。

(例)



○ 無線局
● 反射板などは「02」として下さい。

③ 反射板位置

反射板設置場所の経度緯度を、世界測地系で記入して下さい。

④ アンテナコード

別紙—1を参照下さい。

- 1桁目 : 反射板は「0」です。
- 2～4桁目 : 反射板の横の長さ (0.1m単位)
- 5～7桁目 : " の縦の長さ (0.1m単位)

指向特性に影響しますので、横×縦は間違わないで下さい。

⑤ 反射板海拔高

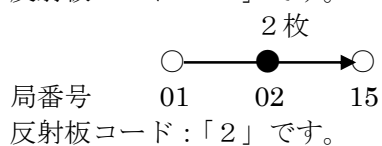
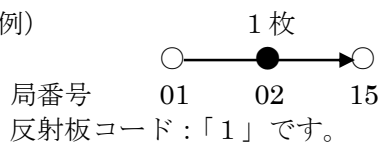
反射板の中心の海拔高を4桁以内 (1m単位) で記入して下さい。

⑥ 反射板コード

一地点の反射板の枚数により下記の例のように記入して下さい。

反射板コード	内 容
1	1ヶ所1枚反射板
2	" 2枚 "
9	無給電アンテナ

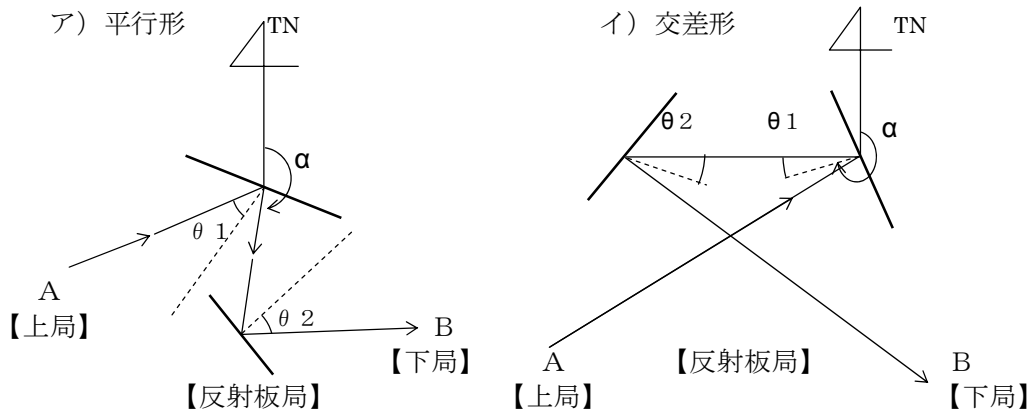
(例)



* 無給電アンテナ (パラボラ背面中継) の場合は給電線損失を0.1dB単位で特記欄に記入して下さい。

⑦ 反射板角度

2枚反射板を用いた場合のみ、下図に示す角度 α を3桁まで(度単位)で記入してください。



注 1枚目の反射板の中心と2枚目の反射板の中心を結ぶ線の方角を、TNから測った角度「 α 」を記入します。

[参考]

$$\theta 1 = \frac{(\text{反射板から見たAの方角}) - \alpha}{2}$$

$$\theta 2 = \frac{180^\circ - [\alpha - (\text{反射板から見たBの方角})]}{2}$$

6. 「SD情報」の欄

SD使用時のみSDアンテナの情報として記入、その他はblankとして下さい。
局番号、アンテナコード、レドームコード、アンテナ名は、2項の局情報の各項参照。

① SD間隔1

SD間隔をメインのアンテナを基準に下側にSDアンテナがあればその間隔を3桁(0.1m)記入してください。

また、上側にSDアンテナがあればその間隔にマイナスを付けて下さい。

7. 「複数反射板情報」の欄

この欄は、記入不要です。

8. 「品質評価情報」の欄

回線設計に必要な無線区間の伝搬路情報を記入します。

① 局名及び局番号

左側に01(送信)局、右側に15(受信)局の局名と番号を記入します。

② 希望波情報

ア) 伝搬路種別コード

伝搬路種別コードと平均伝搬路地上高は、4区間まで記入できるようになっています。各無線区間の伝搬路種別を、それぞれの区間ごとに記入します。

中心線より左側が下り区間、右側が上り区間の欄ですので左詰で記入してください。

コード	種別	コード	種別	コード	種別
1	水面	3	畑(乾田)	5	山岳・森林
2	水田	4	都市	6	反射波なし

注 反射板がある場合には、反射板で区切られる2区間について、個々に記入して下さい。

⑤ 不規則反射の項

QAM方式において、不規則反射について記入します。

注 反射板がある場合には、反射板で区切られる2区間について、個々に記入して下さい。

不規則波コード	内 容
0	正規反射点が陸上で、陸上のみの伝搬路
1	正規反射点が陸上で、海上を含む伝搬路
2	正規反射点が海上で、正規反射波を遮るリッジがある場合
3	正規反射点が海上で、正規反射波を遮るリッジがない場合

不規則波コードが「1」及び「2」の場合には、不規則反射波の範囲を上位局から最近反射点及び最遠反射点(0.1km単位)を記入して下さい。

注 最遠反射点とは、不規則波が存在する水面区間において、見渡せる範囲の最も遠い反射点であり、最近反射点とは最も近い反射点です。

⑥ 断率改善・素子規格の項

受信機 EQLコード

0 6	なしの場合
0 7	ありの場合(映像STL/TTL)
1 4	ありの場合(映像TSL、音声、監視・制御64QAM回線)

⑦ 降雨強度(10GHz以上)

総務省の技術審査基準に示されている地域ごとの降雨強度に最も近い場所の値を読み取り、3桁(0.01mm/分)で記入してください。

⑧ 断率・断率規格

記入は不要です。

1km当たりの目標瞬断率または目標断時間率を仮数3桁(0.01単位)、指数は整数1桁で下例のとおり計算されます。

(例) A～Dバンド	5×10^{-7}
E～Gバンド	1. 25×10^{-6}
M～Nバンド	4×10^{-7} (STL/TTL)
M～Nバンド	1×10^{-6} (TSL)
M～Nバンド	4×10^{-7} (音声、監視・制御)

⑨ 最遠回線長

当該無線区間の予想される最遠回線長を4桁(km単位)で記入して下さい。

なお、デジタル方式のSTL/TTLでは、
A～Dバンドでは、全区間を100Km、M～Nバンドでは125Km
E～Gバンドでは、10Kmと想定しています。

9. 「特記事項」の欄

① 再生・非再生中継コード

0	再生の場合
1	非再生の場合

② 受信機帯域幅

受信機等価雑音帯域幅を、0.1MHz単位で、記入して下さい。

(デジタル方式の場合)

- ・ 64 QAM-TS方式 伝送容量40.2Mbpsは、6.7MHz
- ・ " " 伝送容量84Mbpsは、14.0MHz
- ・ " IF方式 伝送容量24Mbpsは、6.0MHz
- ・ Q-2250AT-D方式 伝送容量2250Kbpsは、375KHz
- ・ Q-1125CT方式 伝送容量1125Kbpsは、188KHzです。

③ 受信機熱雑音電力

受信機熱雑音電力を0.1dBm単位で記入して下さい。

- (例) Q-40MT-D方式の場合：規格はBW=6.7MHz、NF=4dBは以下です。
Q-84MT-U方式の場合：規格はBW=14.0MHz、NF=4dBは以下です。
Q-2250AT-D方式の場合：規格はBW=375KHz、NF=4dBは以下です。
Q-1125CT方式の場合：規格はBW=188KHz、NF=4dBは以下です。

④ クロック周波数

- ・ 64 QAM-TS方式
伝送容量40.2Mbpsの場合、クロック周波数は6.70MHz
伝送容量84Mbpsの場合、14.0MHzとして下さい。
* なお、IF伝送方式の場合は、記入は不要です。
- ・ 音声、監視・制御回線
伝送容量2250Kbpsの場合、クロック周波数は375 KHz
伝送容量1125Kbpsの場合、188KHzとして下さい。

⑤ 送信ろ波器コード

0	なしの場合
1	ありの場合

- ⑥ 入力年月
⑦ 投入者
⑧ 特記
- } 修正時などに必要ですので、ご記入ください。

以 上